

目次

はしがき	i
第1部 基礎編 談話分析の前に	1
第1章 談話とは何か	3
1. 談話分析とは何か	3
2. 談話とは何か	4
3. 形式主義と機能主義	5
4. 文よりも大きい単位	6
5. 言語使用	6
6. 発話	7
7. テキストとテキスト言語学	8
課題・さらに知りたい読者のために	10
第2章 ことばの構造と機能	11
1. ことばの構造	11
2. ことばの機能	14
A. 情動的 (emotive)	15
B. 動能的 (conative)	15
C. 関説的 (referential)	16
D. 交話的 (phatic)	16
E. メタ言語的 (metalingual)	16
F. 詩的 (poetic)	17
G. 状況的 (contextual)	18
3. 談話分析の手順 —— 構造⇄機能	19
課題・さらに知りたい読者のために	20

第3章 テキストとコンテキスト	21
1. テキスト (text) とは	21
A. 言語行動の記録・資料	21
B. まとまりのある言語表現	22
C. テキストとコンテキスト	23
2. コンテキスト (context) とは	24
A. 言語的文脈	24
B. 非言語的文脈	26
3. コンテキスト=談話-テキスト	27
課題・さらに知りたい読者のために	28
第4章 談話とコミュニケーション	29
1. コミュニケーションとは何か	29
2. コミュニケーションの要素	30
A. 参加者 (participants)	30
B. メッセージ (message)	31
C. 媒体 (medium)	32
D. 相互主体性 (intersubjectivity)	33
3. コミュニケーションの種類	35
課題・さらに知りたい読者のために	36
第5章 データの収集と文字化	37
1. どのようなデータを手に入れるべきか	37
2. どのようにしてデータを収集するか	39
3. データをどのように文字化・記号化すべきか	39
4. 分析法とデータの収集とその記述法	42
課題・さらに知りたい読者のために	44
第2部 方法編 代表的アプローチの特徴	45
第6章 レトリック——巧みに書く・話す	47
1. 古典修辞学 (classic rhetoric)	47
2. 近代修辞学 (modern rhetoric)	48
3. 対照修辞学 (contrastive rhetoric)	49
4. レトリック分析 (rhetorical analysis)	51
A. ジャンル分析 (genre analysis)	51
B. テキストの構造分析	52
課題・さらに知りたい読者のために	54

第7章 談話文法 —— 結束性と情報構造	55
1. 狭義の談話分析とは何か	55
2. 文法と語彙の結束性	56
A. 文法上の結束性 (grammatical cohesion)	56
B. 語彙上の結束性 (lexical cohesion)	58
3. イギリス人とエチオピア人	59
4. 既知と新出 —— 情報構造	60
課題・さらに知りたい読者のために	63
談話室 (1) ポライトネス	64
第8章 発話行為論 —— 発話は行為である	65
1. 文の形式から発話の機能へ	65
2. 遂行文 (performative)	66
3. 発話行為 (speech acts)	67
4. 直接発話行為と間接発話行為	68
5. 字義通りの意味か否か	69
6. 発話の機能	70
課題・さらに知りたい読者のために	72
第9章 語用論 —— 会話の含意と協調の原則	73
1. 語用論 (pragmatics)	73
2. H. P. Grice	74
3. 会話の含意 (conversational implicature)	74
A. 慣習的な含意	75
B. 会話の含意	75
4. 犬に咬まれた話	76
5. 協調の原理	77
課題・さらに知りたい読者のために	80
第10章 コミュニケーションの民族誌 —— いつ、どこで、だれが、どう話すか	81
1. コミュニケーションの民族誌とは	81
2. 研究の手順	82
3. SPEAKING の民族誌	83
4. スピーチ・イベント —— 日本人の求婚	84
5. セールス・トークの日米比較	86
6. 伝達能力 (communicative competence)	87

課題・さらに知りたい読者のために	88
第 11 章 電話の始め方・終わり方 —— 会話分析 その 1	89
1. 会話分析 (CA) とは何か	89
2. 電話はどのようにして始めるか	90
3. 冒頭の同時発話をどう解消するか	92
4. 電話はどのようにして終わるか	93
課題・さらに知りたい読者のために	97
第 12 章 会話の諸相 —— 会話分析 その 2	99
1. 話者交代・重複・一時休止	99
2. 隣接ペア・挿入連続・選好される応答形式	101
3. フィードバックと修復	103
課題・さらに知りたい読者のために	107
談話室 (2) 学生たちの会話	108
第 13 章 非言語コミュニケーションの研究 —— 接近・視線・頭の動き ..	109
1. ことばによらないコミュニケーション	109
2. 接近	111
3. 視線	112
4. 頭の動き —— うなずきを中心に	114
課題・さらに知りたい読者のために	116
第 14 章 アコモデーション理論 —— 相手に合わせてものを言う	117
1. アコモデーション理論	117
2. フォーリナー・トーク	119
3. コミュニケーション・ストラテジー	121
課題・さらに知りたい読者のために	124
第 15 章 インターアクションの社会言語学 —— フレームをもとに解釈す	125
1. インターアクションの社会言語学	125
2. 小集団討論の日米比較 —— フレーム	126
3. チュートリアルという個人授業	129
課題・さらに知りたい読者のために	132

第 16 章 スキーマとスクリプト —— 背景知識は理解を促す	133
1. スキーマとスキーマ理論	133
2. 証言から引き出せること	134
3. 2 種のスキーマ	136
4. スクリプト	136
5. 誤解の種	137
課題・さらに知りたい読者のために	139
談話室 (3) なぜなぜの談話構造	140
第 17 章 変異分析 —— ハナシの構造を問う	141
1. 変異分析	141
2. 体験談の構造	142
3. 談話中の変異形	146
課題・さらに知りたい読者のために	148
第 18 章 選択体系機能言語学 —— レジスター・ジャンル・コンテクスト	149
1. 選択体系機能言語学 (SFL)	149
2. レジスター (言語使用域)	149
A. 言語使用の領域 (field of discourse)	150
B. 言語使用の趣意 (tenor of discourse)	150
C. 言語使用の様式 (mode of discourse)	151
3. ジャンルとテキストの構造	153
課題・さらに知りたい読者のために	157
第 19 章 クリティカル言語学 —— ことばとイデオロギー	159
1. クリティカル言語学	159
2. デートの話	162
3. 核アレルギー	163
4. クリントン=細川の日米首脳会議	164
課題・さらに知りたい読者のために	166
第 3 部 応用編 —— ささまざまな分野に役立てる	167
第 20 章 法言語学 —— シャーロック・ホームズの言語学	169
1. どのような言語形式が使われたか	169
2. どのような意味で使われたか	170

3. 誰がそのことばを使ったか	171
A. Eric Bentley の供述と供述書	171
B. 手書きメモから作られた供述調書	173
C. William Power の自白調書	174
課題・さらに知りたい読者のために	175
談話室 (4) 漫才という言語行動	176
第21章 文体論 —— 言語芸術の世界	177
1. 冒険物語の構造	177
2. William Blake の “The Tyger”	179
A. スクリプト・スキーマ	179
B. テーマ	182
C. スキーマ間の相互関係	183
D. テキスト構造とテキスト・スキーマ	184
3. ドラマの談話構造	185
課題・さらに知りたい読者のために	188
第22章 辞書の中の談話辞 —— <i>well, y'know</i>	189
1. 談話辞とは何か	189
2. COBUILD ² における語用論	190
A. 機能 (function)	191
B. つなぎ語 (link words)	191
C. 話し手と聞き手の関係	192
D. 話題の人と物に対する話者の意識を表す	192
E. 確実性または不確実性を表す	192
3. 談話辞 <i>well</i>	192
4. <i>you know</i> (または <i>y'know</i>) と <i>I mean</i>	194
課題・さらに知りたい読者のために	196
第23章 教科書づくり —— 英語の会話と読み書き	197
1. 電話の始め方 —— OCA の英語	197
2. 電話の終わり方 —— OCA の英語	198
3. 読みの技法 —— リーディングをどう扱うか	200
4. パラグラフ・ライティングの色を出す	202
課題・さらに知りたい読者のために	205
談話室 (5) コミュニカティブ・アプローチ	206

第 24 章 残された課題と方法	207
A. コーパス言語学 (corpus linguistics)	207
B. 談話記号論 (discourse semiotics)	208
C. 談話の認知科学 (cognitive approach to discourse)	209
D. 応用談話分析 (applied discourse analysis)	209
第 25 章 まとめ	211
1. 談話分析の基礎 —— 5 つの項目	211
2. 談話分析の方法 13 —— その要点	213
3. 談話分析の応用 —— 4 つの領域	215
参考文献	217
索引	225

第1章

談話とは何か

キーワード

談話分析、統語論、発話行為論、語用論、社会言語学、テキスト言語学、文章論、談話、形式主義[構造主義]、機能主義、言語の単位、談話文法、言語使用、発話、コンテキスト、テキスト

近年文を越えたディスコース・レベルでの言語研究が盛んである。そこで、第1章では「談話分析とは何か」という基本的な問いに答えた上で、談話(discourse)の本質について考えることにする。

1. 談話分析とは何か

談話分析(discourse analysis)という研究分野は、1960年代から1970年代の初めにかけて、言語学とその隣接科学(哲学、心理学、社会学、文化人類学、人工知能の研究など)における言語コミュニケーションの研究から生まれた。

では、談話分析とは一体どのような学問なのだろうか。言語学の他の分野同様、その定義は立場によって若干異なるのだが、談話を研究対象にして、そのしくみとはたらきを解き明かそうという目的において大方の見解は一致している。談話というレベルで言語分析を行おうとする点では、文法研究の要である統語論(syntax)の上に位置する。文脈(context)との関係で言語研究を志す点では、発話行為論(speech act theory)を含む語用論(pragmatics)と部分的に重なり合う。また、参加者や話題など言語形式以外の要素をも取り込んで総合的な言語研究を目指す点では、社会言語学(sociolinguistics)の特徴を共有する。だから、談話分析を中心とする4分野は、次頁図1の如く鎖状につながっているのである。

課題

- 1 談話分析とは何か。どのような点で文法論(特に統語論)とは異なるか。
- 2 次の記事はどのような点で談話らしさを備えているか。
あすの天気 30日夜の西日本は、気圧の谷の通過で全般に雨が降る。31日は、気圧の谷が東に移り、大陸方面から近付く高気圧に覆われ、秋晴れとなる見込み。——1998年10月30日 毎日新聞大阪版夕刊
- 3 次のAとBによる発話連続が談話であると言えるかどうか検討せよ。
A: あえいうえおあお、かけきくけこかこ
B: ひとよひとよにひとみごろ
A: させしすせそさそ、たてちつてとたと
B: ひとなみにおごれや
A: なねにぬねのなの、はへひふへほはほ
B: ふじさんろくにおうむなく
- 4 (上の句)宙返り何度もできる無重力 —— 向井千秋(下の句 一般募集)
——上の句(下の句または短歌全体)がテキストをなすかどうか、卓立性・結束性・全体的構造という3つの基準に照らし合わせて、考えてみなさい。

さらに知りたい読者のために

- 1 クールタード、マルコム (吉村昭市・貫井孝典・鎌田修共訳) 1999 『談話分析を学ぶ人のために』世界思想社。
- 2 日向茂男・日比谷潤子 1988『談話の構造』荒竹出版。(問題付。)
- 3 マッカシー、マイケル (安藤貞雄・加藤克美共訳) 1995『語学教師のための談話分析』大修館書店。(特に第1章。)
- 4 レンケマ、ヤン (中村則之訳) 1998『伝わることば——談話コミュニケーションの基礎知識』関西大学出版部。
- 5 佐久間まゆみ・杉戸清樹・半澤幹一編 1997『文章・談話のしくみ』おうふう。
- 6 茂呂雄二・小高京子 1993「日本語談話研究の現状と展望」、国立国語研究所『研究報告集 14』秀英出版。pp.245~280。
- 7 スタッブズ、マイケル (南出康世・内田聖二訳) 1989『談話分析』研究社出版。

第2章 ことばの構造と機能

キーワード

構造、形式、音韻・語・句・文・談話、省略、隣接ペア、機能、情動的・動能的[指示的]・関說的・交話的・メタ言語的・詩的・状況的

ことばには、人の身体と同じように、しくみ[構造]とはたらき[機能]の両面がある。主にことばの骨組みに注目して、音韻や文法の構造を記述・説明するのが、狭義の言語学の伝統であった。だが、談話分析や社会言語学においては、コミュニケーションにおいてことばの果たす役割にも目を向けて、その多様な諸相を総合的に捉えようとする。では、何をもってことばの構造といい、何をもってことばの機能というのであろうか。以下の説明では、オナカガスイタという文(または発話)を例にして考えてみよう。

1. ことばの構造

言語学においてことばの構造(structure)とは、ことばの部分と部分の関係を指す。例えば、文(sentence)の構造と言えば、文の中における句と句の関係を指すし、句の構造と言えば、句の中の語と語の関係を指す。

(1) オナカガ スイタ

という文は、どのような構造をなしているか、というと、

[オナカガ] + [スイタ]

に2分され、この順序で組み立てられている。前者はこの文の主語をなし、後者は述部をなす。[名詞句+動詞句]の文構造をなすと言ってもよい。

これとそっくり同じ構造をなすのが、

(2) ノドガ カワイタ

第3章

テキストとコンテキスト

キーワード*

テキスト、コミュニケーション行動、統一性、結束性、テキスト内指示、関連語、コンテキスト[文脈]、表意、推意、言語的文脈(前方照応、後方照応、間テキスト性(洒落、もじり、引喩)、非言語的文脈(媒体、コミュニケーション行動の種類、目的、メッセージの内容、状況、参加者など)

第3章では、テキストとは何か、コンテキスト[文脈]とは何か、そしてテキストとコンテキストとの関係はどうなっているのかについて考えてみることにする。これら、3つの問いに答えられれば、談話分析に必要な小道具をさらに2つ獲得したことになるだろう。

1. テキスト (text) とは

初めに一言お断り。テキストは一種のテキストではあり得るが、テキストはテキストの別称ではない。何でも教材に結び付けたがるのが教師や学生の性。だが、テキスト論は教科書論ではないので、念のため！

早速本題に入るとして、談話分析においてテキストとはどのようなものなのか。この問いに対しては、次のABCの3つの考え方があると思われる。

A. 言語行動の記録・資料

第1の定義は、実際に行われたコミュニケーション行動(特に言語行動)の記録であり、談話分析の資料となるものである。このような行動は媒体の違いにより、話しことばの場合(例えば、軽い会話、電話、売り買いの言語行動、討論、授業など)と書きことばの場合(例えば、メモ、掲示、新聞広告、履歴書、短編小説など)がある。

例1aは、1995年の暮れのこと、メルボルン郊外はマクラウド(Macleod)の

第4章

談話とコミュニケーション

キーワード

- A. コミュニケーション、参加者(送り手、受け手)、メッセージ、媒体、相互主体性、コード、伝達方法、場面、言語と非言語、直示、表意と推意
- B. 内的コミュニケーション、一対一のコミュニケーション、小集団コミュニケーション、パブリック・コミュニケーション、対面コミュニケーション

談話はコミュニケーションのために行われる。では、談話分析の立場からすれば、コミュニケーションはどのような過程であろうか。コミュニケーションはどのような要素から成り立っているのだろうか。そして、コミュニケーションにはどのような類型があるのだろうか。——以下これら3つの問いに答えるとして。

1. コミュニケーションとは何か

まず、コミュニケーションとは何か。改めて、『大辞林』（第2版）を引いてみよう。すると、

コミュニケーション【communication】人間が互いに思想・感情・思考を伝達し合うこと。言語・文字その他視覚・聴覚に訴える身振り・表情・声などの手段によって行う。

とある。これを言い換えれば、「(この営みに)参加する者同士が何らかの媒体を用いてメッセージを伝え合うこと」、とでもなるだろう。この定義は包括的であるものの、記号を自ら解釈する人間の主体性(subjectivity)への配慮に欠けている。

その点、言語学者 Deborah Schiffrin (1994: 386)による説明は媒体を用い

第5章

データの収集と文字化

キーワード

データの収集、文字化、記号化、内省、面談[面接]、疑似自然談話、自然談話、制度的談話、テキスト・タイプ、文字化・記号化の原則

前章までで<談話>、<構造>と<機能>、<テキスト>と<コンテキスト><コミュニケーション>といった談話分析上の基礎概念を押さえた。この第5章では、談話分析の研究手順に不可欠な4つの問いを提出して、一応の理解を得ておきたい。

- ①どのようなデータ[談話資料]を手に入れるべきか。
- ②どのようにしてデータを収集すべきか。
- ③収集したデータをどのように文字化・記号化したらよいか。
- ④どのような方法[枠組み]で分析すべきだろうか。

1. どのようなデータを手に入れるべきか

談話分析を実際に行おうとすれば、データの収集(data collection)とその文字化(transcription)と記号化(coding)が必須となる。但し、書きことばの場合には文字化・記号化の段階が省かれる。

では、どのようなデータを集めたものだろうか。一般に言語分析のためのデータは次の4つの方法によって得られる(Fraser 1994)。

(1) 内省によって得られるデータ

談話分析家が、自らの内省によって言語形式の適不適を判断しながら、提出したデータのこと。後述の(4)とは対極に立つ。

(2) 母語話者との面談によって得られるデータ

母語話者[協力者]に尋ねながら、研究上必要な言語形式を巧みに引き出して得られるデータのこと。

第24章

残された課題と方法

キーワード

コーパス言語学、コーパス、連語、談話記号論、混合様式テキスト、談話の認知科学、認知の社会性、応用談話分析、史的談話分析、文法化、言語発達、ライフストーリー、教室談話[授業]、翻訳・通訳、制度的談話

前章までで談話分析の基本事項は盛り込めたかと思われたが、重要な研究課題と方法をいくつか落としていることに気付いた。そこで、この章では一括して落ち穂拾いを試みることにする (Van Dijk 1985, 1997a, 1997b)。

A. コーパス言語学 (corpus linguistics)

コンピューターを利用した膨大な言語資料の集積であるコーパス (corpus) を使えば、前後の文脈(談話・連文)の中で使われる語の用法や意味が分かるため、様々な利用価値がある(例えば、第20章 法言語学、第22章 辞書の中の談話辞を参照)。

一般にコーパスは次のような研究に有効である(斎藤他 1998)。

(1) 語法研究

特定の語(例えば、副詞 *arguably*)の使われる文脈が明示されるため、語法研究に役立つ。鷹家・須賀(1998: 44-46)参照。

(2) 連語論

膨大な用例が蓄積されているため、今まで気付かなかった連語 (collocation) を発見することができる。例えば、those of us who (次頁例1参照)

(3) 談話意味論

語句の使われている文脈が明示されているため、文脈による意味の違いが見えてくる。